記念講演②

路上のいのちに触れる ～ひとさじの会の活動を通じて～

浄土宗　光照院住職
吉水　岳彦（よしみず　がくげん）師

司会

お時間になりましたので、２日目の講演に入らせて頂きたく存じます。今回の講師は浄土宗光照院ご住職でございます、吉水岳彦様です。講題は、「路上のいのちに触れる～ひとさじの会の活動を通じて～」でございます。

それでは吉水先生、よろしくお願い致します。



講師（吉水岳彦師）

皆様、おはようございます。昨日は楽しい時間をご一緒させて下さいましたことに、心から感謝申し上げます。私自身は教誨師ではありませんが、友人の教誨師達からは、大変孤独というか、矯正教育を受けている方のお話を聞く中で、自身も多くの悩みを抱えるけれども、守秘義務がございますので色んなことは話せません。でも、個別の内容は話すことはできないけれども、昨日のような和気あいあいとした和やかな懇親の場があるということは、本当にそれだけでどれだけ心が軽くなるものかと想像させて頂きます。昨日、テーブルでご一緒させて頂いた、黒田先生、原田先生、池田先生、それから九州矯正管区の様々な施設の方々が、宗派の垣根を超えて一緒になって笑顔で語らう時間というのは、本当に素晴らしいものであるなと思わせて頂きました。

今日私がお話ししますのは、そういった垣根を超えて関わってゆかねばならないような方々、そして、矯正施設に入ったり出たりしている方も含め、路上の生活をしている方々を中心にお話ししていこうと思っております。「路上のいのちに触れる」。私は浅草・山谷（さんや）という地域に生まれ育ちまして、この地域で私が始めた活動が、「ひとさじの会」というグループです。この

グループで、路上で寝ている方々におにぎりを作ってお配りしながらお話を聞いてゆく、そんな活動をしております。



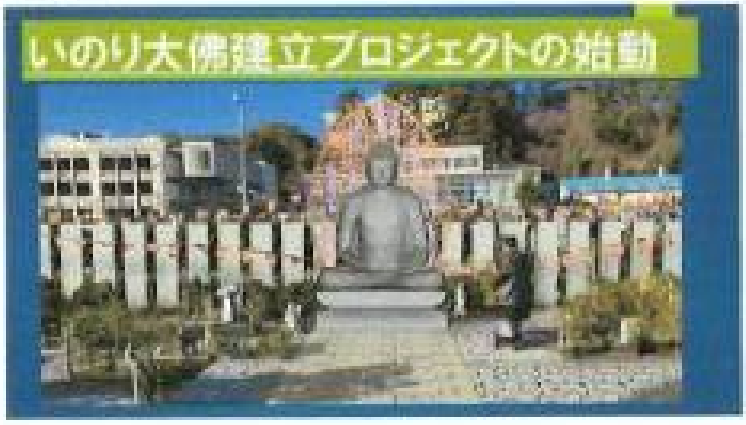
自己紹介

私自身のプロフィールも簡単に載せておきました。先ほどご紹介にありました通り、浅草・山谷にあります お寺、浄土宗光照院の住職です。昨日の講師の先生から、橋本佐内と吉田松陰の処刑の話が出ていましたけれども、市中引き回しになった後、最後に鈴門と言って首を切られて並べられる場所が小塚原処刑場と言いまして、山谷というのは、この処刑場のあった場所に位置しているんですね。そういう場所ですから、霜が立つと言ってもすごく安価な、木賃宿という言い方をしまして、新代ぐらいで泊まれた宿が一杯立ち並んでいたと言います。差別を受けた方々は大変な苦労をされたと思うんですけれども、そういった方々のおかげで医療が発展する機会になった場所でもあります。かの杉田玄白の解体新書は、この山谷の地で解剖することで出版につながったのですが、一方で罪人達に対する人権が全くなかった時代の話であります。でも、そうやって困窮したり差別的な境遇にあったりする人達というのは、その当時だけのものではなく、形を変えて今も差別の心は色々と残っているように思います。私自身も差別をしてきた当事者として、お話をしていきたいと思っております。

他にも、いくつかの学校で教えさせて頂いています。今は仏教系の学校だけなんですが、少し前までは上智大学とか、立教大学などでもお話をさせて頂いて、グリーフケア研究所の実習生達を、この山谷地区で受け入れたりということもしております。今日は難い話ですが、最後までお聞き頂き、何かお持ち帰り頂けるものがあれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

いのり大佛

さて、本題に入る前に少し「いのり大佛」の話をさせて頂きます。昨日あちらにご安置させて頂いたのが、この写真にあります「いのり大佛」の心臓部分になります。まだ出来ていないので写真は完成予想図です。津波で大変だった石巻に大佛を作ろうという話が数年前に起きました。津波から12年目のことです。12年経てば津波の痛みは無くなるのか。いいえ、無くなら



ないですね。この大仏の話が出た時に、多くの方から「いまさら大仏を建てるのか」と聞かれました。日にち薬と言って、歳月が人の心の悲しみを癒すというが、本当にそうなのか。むしろ12年経っていくうちに、幼かった子供は成人していくし、津波で大事な人を失った時に一緒に泣いてくれた親がこの世を去って行ったりするのもこの12年という時間なんです。一人でこの悲しみを抱え続けることは大変なつらさでありまして、やっぱり12年経っても13年経っても、制万に勤めてくる子供の姿を見て本当につらい。最愛の子を津波で亡くしたお母さんが、

今でもあの子のことを考えない日はない。
被曝な胸の痛みは、12年という歳月が経とうとも変わらない。
夢にあの子が出てきたときは、本当にうれしくて、
何をしゃべったか内容は覚えていない。でも目が覚めた時に
「ああ、またあの子のいない世界に帰ってきてしまった」と絶望する。
そんな時に、この言葉にならない苦しい気持ちを、全部丸抱えしてくれるような、
そんな存在が本当に欲しくて。

この方は浄土の信仰なので、

いつか極楽で再会できるということはこの支えになっているけれど、
でもやっぱりそこに行くまでのあいだ、
一人で居る時のつらい気持ちを受け止めてほしい。
つらい時に、いつでも泣きすがれるような大いなる存在が欲しい。

そんな願いから仏が欲しいと言われて。12年経ってからだったんですけれども、この大仏を作ることにしたんです。しかし、私が驚いたのはこのご遺族たちが、これを作るという話を始めた時に言い出したのは、「こんな悲しみを抱えているのは私達だけじゃないんですよね。ウクライナからの避難してこられる方もみ等におられるんですね。

戦争で大事な人を亡くした方もいれば、事故で突如として愛する人を失う人もいる。
犯罪で突如として、何で私の大事な子、何で私の愛する人を失わねばならないのかと、
テレビの前で、事件のニュースが流れるたびに、「ああ、この人も私と同じなんだ。
この苦しみを抱え続けねばならないのだ」と思うと、他人事とは思えなくて。
宗教のことなんて、津波があるまで何も考えたこともなかった。だけれども、
やっぱり生きていくよすがで、大事な人を亡くす、このつらさ、悲しみ、苦しみ。
そして亡くしてもなお生き続けていかねばならない痛み、ぶつけようのない怒り。
そんなものを全て受け止めてくれる宗教の教いというのは、改めて大事だと思う。
だからこの大仏は、私達のためだけではなく、突如として愛する者を失った人達の
悲しみを受け止めてくれる存在として建てたいのだ

と願われたのです。

山谷は異なる宗教が同居する地域

そして、こんなつらい思いは、仏教者に限られるものではないですね。この話をしたら、山谷で一緒に活動する色んな宗教があるんです。山谷は宗教のバリアフリーを公言するほどに、色んな宗教の人と一緒に活動してるんです。宗教教誨師会の皆様と同じですね。色んな宗教者が手を取り合って活動しています。そうですよね。苦しんでいる人を前にして「あなた何教ですか？あ、その宗教なら救いません」なんてしないわけです。どんな宗教の人も等しく関わって行きますから、仏教徒に限るわけではありません。この話をした時に、仲良しのシスターが「私も協力するわよ」って言って下さったので、なんと大仏には、十字架の心臓も入るんですね。なかなかすごいですよね。他の宗教の祈りの対象も、この仏像が立つところに一緒に安置されることになってるんですけれども、おそらく異なる宗教の心臓を持つ大佛は、世界のどこを探しても、この石巻「いのり大佛」以外に類例はないかと思います。震災後すぐに石巻の住職が建立した十字架も綺麗に建て直されていて、こちらも近くに建てることになっています。

手前味噌な話を挙げましたけれども、宗教の異なりを超えて私達が手を取り合っていくことは、本当に苦しい思いをしている人々に向き合い、共に歩む上で重要なことであり、どちらか一方の宗教になるのではなくて、自分の考えを相手に押し付けるのではなくて、それぞれの信仰はそれぞれにとって命ほど大事だと思うからこそ、他者の信仰を互いに尊重し合って生きることが、これからの世界を平和に生きる上で一歩になるに違いありません。山谷という地域は、かなり昔からそれを実践してきた地区でもあります。



これは先ほど話した小塚原の処刑場の千人塚と呼ばれる塚の上に立つお地蔵さんとその土台のところです。南無妙法蓮華経と南無阿弥陀仏の双方が並んで記されています。どちらの宗教の人も大変熱心にお参りに来ていたというのもあるんですけれども、亡き人にとっては共に祈られて良いのではないか。そんな思いから、江戸時代にはこうした碑が建てられていた場所でもあります。悲しみを前にして共に活動できることは大切です。



こちらは先ほどご紹介した仲良しのシスターと信者さん達ですね。シスターのところの信者さんが、駐寺



の観音様の絵を描いてくれる。観音様の胸には十字架がついている。変わっていますよね。そういう地域が山谷というところなんです。また、「きぼうのいえ」という「死を待つ人の家」の日本版を作りたいと言って、カトリックの方が建てたホスピスが山谷にあります。私はそこの理事になっているんですね。この施設を作った方が持っていた十字架を私に預けられて、今も山谷の大勢のいろんな団体と一緒にお参りする際には、写真のように仏様とイエス様の双方を、一緒にお参りさせてもらっています。そんな地域の活動のことです。どうか少し興味を持って頂ければと思っております。



私の中にある偏見に気付くまで

さて、本題に入りましょう。皆様にとってホームレス状態の方々のイメージはどうでしょうか？この写真、どこだと思います？ただタイルが貼ってある場所に路上の人が寝てるというだけでは、分からないですよね。これ、コロナ前の東京の中心地、新宿、都庁の1階です。都庁下、今でも路上



の人が一杯おられるんですね。ただ、デング熱が出たとか、コロナになったとかいうたびに追い出されて。でも、どこかに排除したところで問題は解決しないんです。昨日も無宿人達、罪を犯した人達を、江戸から離れさせる。所払いすれば終わりじゃない、そう言って矯正教育が始まったんだという話がありましたけれども、まさにその通りで、本当は困っているんです。「困った人」は、「困っている人」なんですよね。本当に困ってるんです。そうした人達を放置する、排除する。何の問題の解決にもならないのだけれども、そんなことをずっと長年続けていて、今も変わらない体制がありますね。

2008年くらいに派遣労働者達がリーマンショックで一斉に首を切られて大変な状況になった時に派遣村が作られて。その時ぐらいから生活保護が受けやすくなったのですが、コロナ後、生活保護を受けている人達や、年金暮らしの人達の生活も、より逼迫するようになりました。私達は制度から漏れた路上に暮らす方々に食事を配っていました。近年は、制度から漏れた人達にお弁当を配りに行こうとすると、それを遮るように長蛇の列ができるんです。そのほとんどが、部屋がある人、家がある人なのです。食べられないと言って、何百人という単位で並ぶんです。もうこの国、終わりなんじゃないかと思ってます。こんなに困窮している人が一杯居て放置されている。「行政からココのこと聞いてきました」「ケースワーカーさんから、炊き出しをする場所の情報をもらってきました」と言って、食事をもらいに来るんです。

困っている方がこれだけ大勢いるにも関わらず、「ホームレスは減ったよね」「生活できないのは自己責任でしょ」って、未だにこうです。子供の貧困を通じて、貧困問題に対する世間の関心は随分大きくなったと思います。しかし、本来、行政が行うべき支援の下請けのような役割を、民間支援団体が担うような状況は増えています。新宿の民間支援団体は、800人もの人が並ぶ炊き出しを毎週行っています。災害被災地における自衛隊の炊き出しは数百人から千人を超える規模で行われますけれども、その規模の炊き出しを、一般の民間団体が担っている。ちょっとどうかしてるんじゃないかと思うような状況が今あります。

昨日も犯罪と困窮の関係について言及されていましたが、路上と矯正施設を行ったり来たりせざるを得ない人や、矯正施設に入っている人のお子さん方が、教育を受けにくい状況になってしまったり、親から直接愛情を注がれる機会を失っていたり、放置されたり、気付かれなかったりしています。そんな子達が、生きるために、他から盗みや詐欺をして物を得ていこうとする。悲しみ

や苦しみの連鎖を巨の当たりにして、なかなかこれをとどめ得ないことが、つらいなと思うんですね。

子供の頃に見た路上生活者

私が山谷というところに育てて頂いた中で、色んなものを目にさせてもらいました。子供時代から路上で生活する人は一杯いました。私が小学生の頃、ちょうどバブルの時代でした。高級品で着飾った、きらびやかな人達が居る一方で、貧しくてブルーシートに身をくるんでいるような人達や、酔っ払った人が町のあちこちにいました。

小学校は吉原と言って、今「らぼう」という大河ドラマの舞台となっている遊郭のあった場所にありました。山谷は吉原の隣にあり、街の中を歩いていると周囲から、酔っ払って寝てる人や、喧嘩で血だらけで倒れてる人などが届ました。私にとってはそれが日常で、当たり前の景色でした。皆さんだったら人が血だらけで倒れてたらどうします？きっと警察呼んだりとか、救急車呼んだりしますよね。でも我々は「ああ、また喧嘩したんだな」と思っているだけです。人が倒れていたら、皆、まず声掛けると思うんです。でも、「寝てるのだろう」くらいにしか私達は思っていないので、気にすることもありませんでした。今は、そんなことありませんよ。随分と町が綺麗になりましたから。

「ただいま」って小学生だった私がお寺に帰って来ると、お寺の玄関が自動扉でもないのに勝手に開いて、中から知らない男が「にゅっ」と出てくるんですね。何かなと思って見てると、私の顔を見るなり、「うおっ！！」て言って、「うおーっ！」て立ち去っていくんです。何事かと思って後ろ姿を見ると、小脇にお供え物を抱えてるんですね。そうなんです。お供え物を持って逃げるところだったんですよね。「どうしようもないなあ。ろくでもないなあ、この人達は。一体何なんだろう。」と思っていました。

小学校に登校班で歩いて行きます。２月の寒い時期に、アーケードのある商店街を歩いて行くと、私達小学生が学校に行く８時くらいには、もう路上で寝てる人は居ないんです。100人を超える人がこのアーケードの下に寝てるんですけれども、その人達は皆、朝４時とか５時に行かないと、良い仕事は早く取られちゃうので、皆、朝早いんですよ。でも時々、小学生が歩いていく時間に、まだぼっんと寝ている人が居るんです。何だろうと思って近づいてみると、何かおかしいなと思う。そうすると後ろからピーポーピーポーと救急車が来て。子供心に思いました。「そりゃ、こんな寒いのに、路上で寝れば体を壊すだろうな」と。

私の通っていた小学校、すごく狭いんです。あまりに狭いので、隣接する公園の敷地の半分を小学校の校庭にして頂いていたんですね。そんな校庭で私達が遊んでおりますと、公園側から路上で生活する人が沢山集まって来て、薄いフェンス一枚で間仕切りをしてあるんですけれども、そのフェンスに手でしがみついて、こっちをじっと見てるんですね。私は子供心に思いました。「気持ち悪いな」「なんでジロジロ見てるんだよ」って。そして、「この人達、どこからやって来たんだろう」と思いました。

小学生がまず聞くのは学校の先生です。小学校の先生に『一体あの人達は何なのか』と聞いてみます。すると学校の先生達が私にこう答えてくれるんですね。「いいか、あいつらはな、怠けてたからあんな風になったんだ。あんな風になりたくなければ、良く勉強して頑張るんだぞ。」子供は同じ質問を色んな大人にします。私もそんな子供でした。近所のおじさんに聞きました。すると近所のおじさんはこう答えました。『ほら、あいつら見てみろ。汚いだろう。あんなに汚れてたって平気なんだ。しかも近付いたことあるか？ 臭いだろう。あんなに臭くたって平気なんだ。だからきっとあいつら頭がおかしいに違いない。危ないから近寄っちゃいけないぞ。』こんな風に言われて私達は育ってきたんですね。

ですから、今でこそ私は彼らに関わる活動をしているのですが、以前のホームレス状態の方々に対する私のイメージは『怠けていて、働かずに勝手気ままに居たい人』『汚くても臭くても、お風呂に入らない人』『何を考えてるか分からない、近寄ってはいけない人』でした。

宗教者でありながら偏見に気付かなかった

こういったイメージは、恐ろしいことに仏教の勉強をしても変わらなかったんです。これは、すごくショックなことでした。幼い頃からお寺で育ちましたから、仏教の信仰についてのことや、困っている人が居たら手助けするようにと教えられて育って来たはず。にも関わらず、全然私はそんな気持ちになっていないんです。恐ろしいことだと思います。

それが普通じゃないということに気付かせてもらったのは、生活困窮者支援のＮＰＯとの出会いでした。これね、おかしいんですよ。「困ってる人を手助けしたい」「宗教者として役割を果た



したい」と思っていた私は、仏教高校で教えた時に、手首のところに傷が一杯ある学生と出会い、その子のことが気になったことがきっかけで、青少幼年の悩みを聞く電話相談や、引きこもりの方々の自助グループなど、色んな社会活動をするようになっていきました。しかし、毎日見ている路上の方々には気持ちが向かないんです。これが怖いことで、いわゆる偏見というものなのでしょうね。差別してる、偏見を持っているという意識すら持ってないんです。「ああ、あの人達か」っていう、その「ああ、あの人達か」の中に、差別や偏見の眼差しがあることに自分で気付かないんです。

ＮＰＯとの出会い＝お墓が欲しいという相談

そんな色々な社会活動をしていたので、巡り巡って、元路上生活の人や、現路上生活の人達の、最期を迎える時の供養や、彼らのためのお墓が欲しいという相談を受けることになりました。忘れもしません、2007年のことでした。生活困窮者のお墓が欲しいって言われたんですね。私、正直なところ「何言ってんだろう」と思いました。食べるものも着るものも住むところも、何も求めていない人達が、一足飛びに終の棲家であるお墓を求めるだろうかって、そう思ったんですね。皆様方は、どう思いますか？路上生活してる人から「お墓欲しいんですけど」って聞かれたら皆さんどうします？私、ちょっとびっくりしました。一体何言ってんだろうと思いました。

でも「ちょっと待てよ」と思ったんです。私は当時、29歳でした。その時、複数のＮＰＯ団体の代表の方々が相談にお越しになられて、40代、50代、60代、70代。自分より人生をずっと豊かに生きてきた、真剣に生きてきた方々が、この小僧に頭を下げるんです。そこには何か深い意味があるに違いないと、そんな風に思わせて頂いて。私は正直分からない、何言ってるんだろうと思ったけれども、でもこれだけ真剣に皆さんが頭を下げねばならぬほど、大切な意味があるに違いないと、そう思ったんです。

で、よくよく話を聞きながら考えてみると……。路上生活の人達のことを、私は沢山知っていると思っていたけれど、にゃあ実際に直接彼らの声を聞いただろうか。彼らと相対して、彼らの生きてきた時間をちゃんと知っているだろうか。彼らのことをどこまで認知してるだろうか。私は初めて気付いたんです。何も知らないって。それで、「まずは皆さん方の活動に付かせて下さい」と言って、実際に彼らの行う炊き出しに付かせてもらったんですね。

炊き出しで路上生活者の声を聞く

2008年1月2日のことでした。行って驚きました。新宿都庁前の公園に行くと、四百数十名の路上の人達が集まっていて、そこでボランティア達がご飯つけてるんですね、そこに混ざらせてもらって、食事の準備をさせてもらいました。

年末年始の役所が閉まっている間、民間の支援団体に混じって、お医者さんや看護師さんたちが大勢、力を加えてくれています。今はちょっと人員削に無理なんですが、当時は公園の中に医療テントを張って、年末の12月28日から1月4日くらいまで、24時間体制で医療が平等に受けら

れるように、ボランティアの医師・看護師達がそこに詰めてるんです。罪を犯してきた人かも分からない、どういう人かも分からないけれど、ただ医療が必要だと言われれば、すぐに医療が受けられるように努めるのです。すごいなと思いました。私もそこで一晩、宿直としてお医者さん達と一緒に過ごさせてもらうと同時に、炊き出しや夜回りの手伝いをさせてもらったんです。



路上の人には、7人1列で並んでもらいます。長机に丼ぶり飯を沢山積んでいって、夜7時になると一斉に「はいっ、はいっ」って言ってご飯配るんです。そうすると、一番前の人達が、ご飯を口にかき込みながら、また後ろに並ぶんです。食数700食くらいありましたから、早く並べば2杯もらえる。「なんだ、やっぱりガツガツしてるな」と私は思っていました。ところが違ったんです。雛ですね。見られてたんでしょう。「ああ、あいつ、2杯もらうつもりだな」って、私はそんな顔をしてたんでしょう。横に居た別のボランティアさんから、「あれはね、ああやって早くご飯をもらいに行かないと2つもらえないでしょ。この寒い時期、食事を取りに来られないような高齢の路上生活者が居て、彼らは彼らでコミュニティがあるから、そういったところに食事を届けに行ってくれるのよ」って言われた時に、私は自分の心の卑しさを恥じました。本当に色んな人が居るんだって改めて思わせてもらったんです。

炊き出しが終わった後、「アンタもこれ食いな」って言われて、炊き出しで出したご飯を食べろって言うんですね。文字通り、同じ釜の飯を食うんです。暗い公園の隅で、ご飯を食べていると横から作務衣姿にツルツルの頭で行きましたので、「おい、アンタ坊さんかい」って来るんです。見るとさっき一緒にご飯をつけていたボランティアの人なんですけれど、よく見ると周囲の人が、あちこち洋服が破れていたりして、「あ、路上で暮らしてる人なんだ」と分かりました。で、「そうですけど。」「いやあ、キリスト教の人は見るけど坊さん珍しいな」って言葉が返ってきました。ちょっとこれは恥ずかしいなと思いながら、「ああ、そうですよね」って言って話を聞いてると、向こうから「でも懐かしいなあ」って言われたんです。私、会ったことない人なんで、「何が懐かしいんですか」って聞き返しました。すると「いやあ、俺。子供の頃お寺行くの楽しみだったんだ」って。「そうですか、お寺に行かれたんですね」って。

ああ、俺んちはよう、親がほとんど家に居なくて、
ばあちゃんがずっと育ててくれて。そのばあちゃんがよくお参りに行って。
正直、和尚さんが何喋ってるか全くわかんなかった。ちんぷんかんぷんだった。
だけど、ばあちゃんが寺に行った日の帰りには必ずうまいもん食わしてくれたから、
それが楽しみでよ

って。　ああ、そうですか。」そんな話をしていると、また別のおじさんがやってきて「アンタ坊さんか？」って、また始まるんですね。

寺行くとほら、あるだろう？あの見たこともない高級な菓子が！！

「そうかもしれないですね」って苦笑いしてると、

遊びに行くと和尚さんが、いつもあれを手づかみで俺たち子供に手渡してくれて、
それが本当に嬉しくて、お寺行くの楽しみだったんだ

って言ってくれて。「まあ、根さするとよくゲンコツもらったよ」っていうおじさんも居て、気が付くと色んなおじさんたちが周りにいて、色んな話をして下さったんですね。

自分とは違うものと思っていた

私、そんな話をしながら、すごく当たり前のことに気が付かされたんですね。それは、「ああ、このおじさんにも子供時代があったんだ！」と。当たり前ですよね。「オギャア」って、おじさんで生まれてくるわけにゃないわけで。赤ちゃんの時代があって、私達と同じように幼い時代があって、私達と同じように屈託なく笑って遊ぶ時代があって、私達と同じように幸せになりたいと思って、精一杯置かれた環境で生きてきたがやのことなんですよね。でも私の中には偏見があって、私はここに何しに行ったか。

ホームレスっていう人は、一体どういう人間なんだろうか！
路上生活者というのは、どんなものなんだろうか！

自分とは違う。違和感のある、自分と異なる人間。人間じゃない。自分とは違うもの。そんな思いがどっか根底にあって、この場に来てたんじゃないだろうかって、初めて気付かせてもらったんですよね。

当たり前ですよね。子供時代があって、置かれた環境の中で、それぞれに精一杯、幸せになりたいと思って生きてきたんですよね。だけど思うようにならなくて……。この時のおじさん達の姿を見て、声を聞いて、私は自分の子供時代のことを思い出しました。

小学校へ行く途中、路上から救急車で運ばれて行ったおじさん。あれは路上で凍死した人だったんだって。私達と同じ人間なんですよ。皆が路上で死にたいと思っているでしょう。最期の瞬間、家族でなかったとしても、誰かにそばに居てもらいたかったんではないか。校庭で遊んでる時に、私が気持ち悪いとしか思わなかったおじさんがいました。でも、もしかしたらあの時、子供だった私を見ていた、あのおじさん達は、遠くに残した家族がいて、子供だった私を通して愛する人のことを思い出していたんじゃないか。はたまた、屈託なく幸せに暮らせていた自分の幼い時のことを思い返していたのではなかろうか。そんなことを思ったら、急に胸が苦しくなって……。皆、好きこのんで路上にやって来たわけではないんですよね。

あるおじさんは言いました。

俺は政治に関する仕事をしていた。
だけどよう、家族とうまくいかなくて『好きにしろ！』って言って
出てきちゃって……。ダメだよな。

あるおじさんは言いました。

俺は派遣会社の社長やってたんだ。
だけどよう、会社の経営ってうまくいかないよな。
妻に借金が残らないように離婚届置いて夜逃げしてきた。

あるおじさんは言いました。

俺はバカだけどよう、料理だけはできんだよ。
飯作るのが上手いからって調理師免許取って遠洋漁業に出たんだ。
金貯かって自分の店を持って、『俺、一流のシェフになるんだ』って言って……。
このザマだよ。陸の上はダメだった。

あるおじさんは言いました。

誰も俺のことなんて見返りゃしない。
若い時に悪さもした。ムショも入った。
そんなんなるとな、誰もまともな仕事なんて紹介してくれないんだよ。
歳とったらもう何もできねえよ。

本当に色んな方が居て、皆、好きこのんで路上に出て来たわけではなく、選べない環境の中で精一杯生きてきただけのことです。

仏教を勉強する間、無常という言葉を沢山学びました。でも、こうした出会いの中で、自分が学んできたものが、どれだけ薄っぺらいかを教えられました。物事は変化し続けていく。言葉の意味は、そういうものですよ。しかし、過去の人達が「無常だなあ」と言ったのは、

何でこんな生き方しなきゃいけないのか、
どうして俺はこんな生き方しかできないのか、
何でこんな苦しい思いしなきゃいけないのか、
俺だって普通に生きたかった、
何で！何で！何で！何で！

って、皆、思うようにならなかった色んな「何で」の中で生きてこなきゃいけなかった、そういう、生きる、様々な苦しみやもがき、色んなものを含めて「無常」と呼んでいたことを、私は路上で出会った方々から沢山教えてもらったように思うんです。

いのちに触れる



そんな中、路上で亡くなった人達のための追悼供養に参加することになりました。新宿の中央公園で行われる、夏祭り追悼法要。写真の真ん中に祭壇があって、上に「無念追悼」と書かれています。この日の追悼供養には、四百数十人も集まりました。初めての追悼供養、でも、私はとてもショックでした。あの「無念追悼」と書かれた下、真っ白になっていますが、あそこに紙が貼ってあるんです。ちなみに、夏祭り追悼供養は8月に行われます。皆、供養というと8月のお盆をイメージするんですよね。きっと東京の人は少ないのでしょう。東京のお盆は7月ですから。で、この紙に、前年の8月からこの年の8月までに亡くなった人達のことがダーッと書いてあるんです。いざ供養と思った時に、

新宿区牛込町何番地より○○病院搬送後死亡、何歳男性。
新宿区どこどこで死亡、何歳男性。
新宿区どこどこから○○病院搬送後死亡、何歳男性。

それが羅列してあるんです。名前が無いんですよ。お寺でお参りする時は、私のお父さんのために、お母さんのために、おじいちゃんのために、娘のために、息子のために、おばあちゃんのためにと、名前があるんです。両親がつけてくれた、生まれる時に祈りをこめてくれた名前があるんですよ。だけど、路上で死ぬということは名前すら失うんだということに、私はショックを受けました。でもね、この2008年の供養ですごくショックだったのは、この名簿の最後のところを目にした時でした。

新宿駅コインロッカー内死亡、0歳。

この子は生まれてすぐにホームレス状態になったんだって思ったら、本当に悲しくなりました。

ホームレスというのは人を指す言葉じゃないですよね。ホームレスはあくまで状態を指す言葉です。家が無ければハウスレス。屋根が無ければルーフレス。でもホームレスっていうのは、安心して居て良い場所が無い。安心して生きて居られる場所のことをホームと言うんですよね。困窮者支援団体の中では必ず言われることなんです。

供養には、四百人以上の人が集まっていました。私には亡くなった方の名前は分かりません。でも、「あいつはとってもいい奴だったんだ」って涙する人。黙って肩を振るわせる人。亡くなっ

た人の名前を、祭壇ガンガン叩きながら「何ヤン！何ヤン！」って呼び続ける人もいて。私には名前すら分からない方だけれども、確かに生きて、この人達と関わって、精一杯生きたんだなっていうことが、通帳の中で感じられるんですよ。

命の重さに変わりはない、世間の言葉は建前ですよ。でも彼らの喜び、悲しみ、別れを惜しみ、一生懸命生きる姿の中で、人を悼む気持ちに、生前のお金の有無もあり方も関係がないこと、どんな環境に生まれようと、どんな境遇を過ごしてこようと、必ず誰か大切な存在を持っているということを教えられたんです。命の重さに変わりがある社会だからこそ、命の重さに変わりがないと思えるような祈りの時間がとても大事に思えたのです。

火葬場で棺が見つからず

ＮＰＯの人達が、私のところにお葬の話を持ってきた理由というのは、はっきりしています。ある生活保護の人が亡くなって、ＮＰＯのメンバーが、その人の最期のためにお参りに行くことになりました。亡くなった方は、ＮＰＯのやっているサロンに週１回行き、そこでコーヒーを飲むのが楽しみでした。それをヘルパーさんが聞いていて、部屋で亡くなった70代男性のために、ＮＰＯにも知らせてあげようということで、ＮＰＯのほうにもその方が亡くなったという知らせが入ったんですね。で、ＮＰＯのメンバーも、この生活保護を受けていた男性の火葬に立ち合うことになった。

ところが行ってみると、遺体が無かったんがそうですよ。こんなことは私も聞いたことがなかったんですけれども、生活保護のケースワーカーから言われた火葬場に行ったのに、その人の遺体が無い。一体何があったのかと思って、とにかく分からないけれども、支援者も当事者も一緒になって、斎場じゅうを探し回るわけですね。もちろん斎場の管理者も「なんだなんだ、どうして無いんだ！」って探してくれて。ペット斎場があるような大きな斎場でした。ペット斎場にあったんじゃないんです。ペット斎場のさらに脇にある雑然とした倉庫の中に、ポーンと棺が置かれていたのを見つけたんです。それを見た時に、支援者も、同じ境遇の当事者も、皆「うわーっ！」て泣いたんですよ。

> 村でお金が無いっていうだけで、こんな送り方をされなければならないのか！
> 人として確かに紆余曲折あったかもしれない。つまらぬこともしたかもしれない。
> でも人間の最期の時に、どうしてこんな扱いを受けなければならないのか！

その時の火葬の担当者が「すみません、時間なので」と、ただ火葬され、焼かれ、灰になっておしまい。これは火葬ではなくて、焼却ではないか。位牌も読経も何も無く、ただ機械的に焼かれておしまい。人間の最期が本当にこれで良いんだろうか。この人がしっかりと生きたということを、ちゃんと送ることがなくていいのだろうか。

人が精一杯生きたという尊厳

高齢の生活保護受給者や、元路上生活者や路上生活の方々が一緒に居て、彼らが見て欲しいたけれども、こんな風に思っていたんですよね。

> 自分が死ぬ時に誰にも手を合わせてもらえず、自分という存在は全く消えてしまう。
> どうせ俺達なんか野垂れ死になんだよな。結局こんなもんだよな。

尊厳っていう形のないものは、本当にこういう時に現れるんですよ。人が精一杯生きた、それをちゃんと認めていけるような場があるかどうか。ＮＰＯのメンバーは真剣に、これが大事だと思ったんです。そうでないと、同級の境遇の当事者たちの中に、

> 自分なんて生きてたって死んでたって、お前らに関係ないだろう？
> 誰も知らないし、誰も悲しまない。
> 俺なんて生きてても、居なくても、居てもあんまり変わんない。
> どうでもいい存在なんだろ？

と、自分の存在意義を見出せず、人生を諦めてしまう人も出てくるのではないかと、心配されたのです。たかが葬儀と思うかもしれません。されど、葬儀は大切なのです。

> 今回はヘルパーさんに見つけてもらえて、ＮＰＯに連絡をもらえたから、
> ここに来ることができた。でも、もし連絡がなかったら、
> 『あいつ最近来ないな』とまわれてるうちに、誰にも気が付かれずに、
> 俺は死んでるのかもしれない。皆はいつも通りの日常を送っているのに……。
> 俺なんか居ても居なくても変わらないんじゃないか。

これではいけないって思って、ＮＰＯの人達が私のところへ相談に来られたんです。仏教会などに頼んだりもしましたが、やはりなかなか難しく、「路上生活をしてる人が行列してお寺に来るなんて、他の方達に迷惑だ」などと言われてなかなか請け合ってもらえず、「新宿から離れてるけど由谷のお寺でいいか」と言ったら、「由谷なら安かしい」と言って。それで私のお寺にお墓を作り、お盆とかお彼岸とかに供養を行うようになっていったんですね。

これはＮＰＯの事務所の中でお参りをしてるところの写真です。私ね、法話なんかＮＰＯだからしてはいけないと思いました。たけど、来てるおじさん達が「何か話してくれるんだろう、和尚さん来たら話すもんだよな」って言われるので、何か話さなきゃいけない。一番困ったのは、さっきの追悼供養に行った時に、活動家が持ってるような拡声器で法話しろって言われた時に、どうしようかと思いました。キリスト教もいれば、色んな宗教の人もいる中で、しゃべることの困難さを教えられたりもしています。

繋がりを大切に



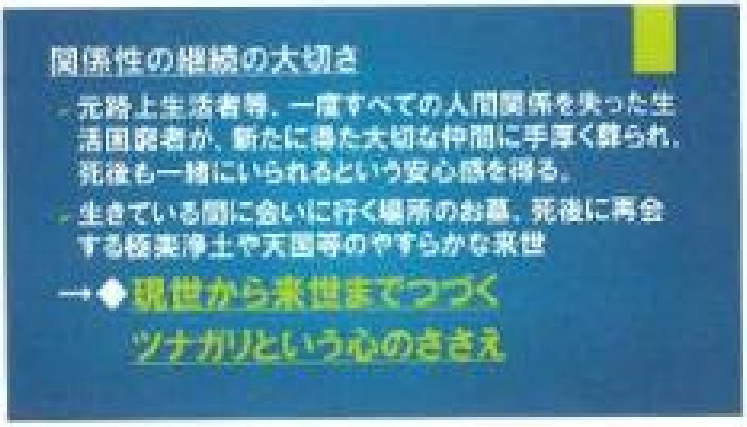
それでもなお、こういう場に居てありがたいなと思うのは、関係性が継続できることなんです。元路上生活の方は一度全ての人間の関係を失ってここに来てるんですよ。ある元路上の方が言いました。その方は当時70代、今80代半ばの方です。元々貧しい家に生まれ、お父さんが事故で亡くなられた後、自分と幼い妹たちを、お母さんが全員育てられないからということで、自分は他の家にもらわれていくことになったと言います。さらに、そこでは家の仕事を手伝わされて、小学校にもろくに行かせてもらえず、他の子たちと同じようにご飯も食べさせてもらえず、ずっと仕事だけさせられて、15歳になった時、本当に逃げ出すようにして、その家を飛び出て東京にやって来たと言います。教育もまともに受けることがなかった15歳の子供に、真っ当な仕事なんてありません。何でも出来ることはしたと言いました。でも結局一杯働いたんです。60歳まで。結婚もできなかった。でも、ここから第二の人生と思ったその時に、友人にお金を騙し取られて、何を信じて生きて良いか分からなくなって、路上に出たという方でした。この方が、お墓を作るといった時にこう言ったんです。

> 多くの元路上生活者や路上生活者が皆「俺なんかどうせ野垂れ死にだ」って
> 言うかもしれない。でも本当はそうじゃないんだよ。
> 誰か一人でもいいから手を合わせて欲しいって思っている。繋がっていたいって思っている。
> 俺たちは路上に出るまでの間に、縁という縁を切らざるを得なかったんだ。
> 中には罪を犯す奴もいるし、ろくでもない生き方をした者もいるけど、
> したかったわけじゃなくて、どうにもならなかった。
> 縁という縁を切らざるを得なかった。そんな中で生きてきた。
> でも、そんな俺達だけれども、ここでNPOの支援のおかげで新しい仲間もできた。
> この仲間とこれから先も一緒に生きていけると思ったら、ずっと繋がれると思ったら、
> 自分は残りの人生をもっと一生懸命に生きていくことができる。

って。

死んでも繋がれる場所＝お墓

生きている間に会いに行ける場所がお墓なんです。死んだらおしまいじゃないんです。死んで形を変えても繋がり続けていけるんです。死者だとしても「あいつが見てたらどう思うかな？あいつが見てるうちは俺、やっぱり頑張んなきゃいけないよな」とか言いながら、皆お墓参りに来る



んですよ。そう思うと、やっぱりこの繋がりっていうのは、生きてる者同士の繋がりも勿論大事だけれども、死してもなお、死者であったとしても、亡き父母だとしても、本当に大事なものなんですよね。そういった繋がりを肯定することによって、自分が何者かが分かることになるし、自分がどう生きていったら良いかということが、案外、自分の繋がっている対象者との関係性の中に、できていくのではないかと思うんです。

昨日も孤立の中での犯罪の話が出てきましたが、やはり誰かとの繋がりというのはとても重要なものなんです。そこに来るからこそ、繋がってるからこそ、精一杯生きねばならない。そんな思いを抱く方々が今もなお多くいて、これまで16年以上活動を続けてきましたけれども、今では私のお寺にＮＰＯのお墓が５つできています。キリスト教も仏教も関係なくできています。それだけやはり繋がりは大事なのです。たとえ血縁で無かろうとも、こういう祈りを通じた繋がりを持つことが、どれだけ生きる力になるのか。

宗教教誨を通じて祈りや信仰を持つことによって、同じ信仰を持つ者同士が繋がることだってあるでしょう。きっとそういう繋がりを持つことが、この先の生き方を変えてくれるに違いないと思います。

医療や福祉の支援団体も必要

山谷にはアルコールのアディクションの人達も、ドラッグのアディクションの人達もいます。そして山谷には、触法者といわれる、法を犯した後にやってくる方も大勢います。満期で出所した後に行き先が無いと言って、刑務所から山谷の支援団体に手紙を書いてこられる方もいらっしゃる。聞くと「俺は前科17犯なんだ」等と言うんですけど、皆さんお分かりですよね。小さな罪を一杯積み重ねなければ生きられなかった、または刑務所に居る方が安心なので戻ろうとしてしまう人達も、ここにやって来る。でも、もう体が思うようにいかなかったり、社会生活をちゃんとしてきていないので、部屋を借りて日常生活を送るっていうことが真っ当にできない人達が大勢居るんですよ。そうなると自分一人では暮らして行けない。生きていけない。でも「助けて」も上手く言えない。そういった人達が流れ着いてくる。

頭を怪我して血だらけで公園でお酒を飲んでるおじさんがいて、どうしたんだろうと思って声を掛けてみると、府中刑務所から出て来たって言うんですよね。足が悪いと言って、足引きずってるんです。「どうしましたか」って言うと、そのおじさんが、「刑務所を出て来たんだけれども、その時に働いたお金をもらってもわずかで、飲んじまったらおしまいだ」って言うんです。で、どこにも行く場所がない。雨が降る中、血だらけで酒飲んでるんですね。これはどうにもならん

と思って、このままだと風邪引いて倒れちゃうと思って、保護することにいたしました。歩けないですから、肩を貸してですね、一緒に宿を予約して宿に泊めて、支援団体にお連れする。そんなことをさせてもらいました。支援には色んな団体が関わっていかなきゃいけません。彼の足の問題や、頭の怪我の問題、実はもしかしたら他に認知的な問題があるのかもしれない。そういうこと考えると医療も必要ですね。山谷には無償の医療を提供する団体もあります。こういう医療の団体と、生活保護を受けてもらったり、社会生活の手助けを行ったりするための社会福祉の団体も必要になります。

生きた心地がする、繋がりが必要

そして、生きている感覚が大切です。エアコンがあって毎日テレビを見られても、生きた心地がしないので、みんな路上に戻っちゃうんですよ。本当に不思議ですよね。屋根があって生きた感じがしないんです。だから「また路上の方が他の奴とわいわい騒げる」って言って路上に戻って行ってしまう。もしかしたら刑務所も似たような感覚があるのかもしれません。そう思うと、過去に過ちを犯してきても、なお生きていて良いと思えるような繋がりが必要なんでしょうね。

ドラッグやアルコールのアディクションの人達で、山谷に根付いて働いている人も居ます。こういった人達は定期的に集まって、繋がってる。そういう繋がりの場を作ってるんですよね。繋がれる居場所があって、すごく重要なんだと思うんです。ドヤ（簡易宿所）の中には食事を作ってくれる施設もあって、アルコールの依存症が続いてなかなかやめられなかった人が来てたんですけど、その方はずっと施設の中で生活していくうちに、アルコールを自然と手放して行ったんですね。なんで手放せたのか本人に聞いてみると、「朝トントン、トントン」ってキュウリを切ったり何か料理の音がして、味噌汁の匂いがする。「ああ、食事なんだな」、そして血縁者じゃないけれど、一緒に食事を取ったり、くだらないことを話せる仲間がいる。そしたら「別に、酒飲みに行かなくてもいいか！」って、変わるんですよね。

人を変えることはできないけれど、環境で変わって行くことがあると教えられる瞬間でもあります。でもそんな時にも、やはり心強いのは、医療があるとか無いとか、勿論大事なことだけれども、それだけではなく、生きた心地がする、こんな風に良い当に生きていこうと思えるような繋がりが大事なのです。本人もやはり生きたいと思ってるんです。それを肯定していくものは、実は繋がりなんだなということを、教えられるんです。

私にとって路上の人達は先生

私は路上生活の方々から多くのことを教えてもらいました。私にとって路上の人達は先生みたいなもんですね。くだ巻きながらとか色々。それで活動してみようと思って作ったのが「ひとさじの会」なんです。路上の方々から色々学びました。さっきも言ったような現実の無常ですね。おじさん逝き、一人ひとりの人生の背景。

たとえ親しい人だとしても、私達は目の前の人の、命の背景、その人の人生の背景を全く知らない。たとえ夫婦や兄弟だとしても知らないんですよ。相手の気持ちが完全に分かりきるなんてことは、あり得ないんですよ。共感的に関わることはできても、真の共感というのはできない。分からないけれども、一生懸命に生きてきたその人自体が、尊いなあ、面白いなあって思うと、またそこに尊重の気持ちが湧き起こってきます。私達の生きる世界に無関係なものが無いということも、私は彼らから直に学びました。



皆さん、ちょっと手を挙げてみましょう。この中で、ディズニーランドに行ったことがある人いらっしゃいますか？あるおじさんが言いました。工事現場をずっと眺めてたんですね。「おじさん何か分かるの？」って私の知り合いが尋ねました。するとこの方はこう言ったんですね。

なめちゃいけねえよ。
俺はなディズニーランドのシンデレラ城の
基礎を作ったんだ。

皆様方は、そのおじさんのおかげでシンデレラ城に行くことが出来たんだと思います。

皆さんの中で飛行機を使ったことがない人はいらっしゃいます？きっと多くの皆さんが使っていると思います。あるおじさんは言いました。

俺は羽田空港で200人もの若い衆を使って空港の建設をしてきた。
だけど目が悪くなっちまって、もうこのザマなんだ。

って言ってました。本当にこういう人がいたおかげで今の生活が成り立っているのだと思います。おにぎりを渡した時におじさんが、

ありがとうな。昔だったら沢山お礼ができたんだけど。

「そんな沢山お礼ができるほどお金持ちだったんですか？」って聞いてみたら、そのおじさんが、

ああ、そうだ。俺には家が2軒あって。

「すごいですね。何の仕事してたんですか」って聞いたら、

九州以外の全ての新幹線の線路をかけた。そういう現場の仕事をしてきたんだ。

って言うんですね。本当にすごいことですよね。そんなおじさんもいれば、

あの仕事は最低だったよ。

と言う人もいました。私が「何の仕事ですか？」と聞うと

原子炉の中の炉内清掃で、みくなもんにやない

って言われました。貧しいが故に仕事が選べず、そういった場所に送られたという人もいるのです。東京の路上には、仕事を求めて九州からやってきた方も多いです。夏祭りで盆踊りをやったりするんですが、人気は炭坑節や、黒田節です。「皆さんすごい良く知ってるな」と思ったら、出身が九州だったりして「なるほどな」と思って。

衆生恩

この問題って都市部だけの問題じゃないんですよ。どの地域であれ、生きていける場所、生きていて良いと思える場所、ここで生きていこうと思えるような繋がりを感じられる居場所が、どの地域であれ、あるかどうかが重要なんだって思うんですね。衆生恩という言葉があります。生きとしいけるものが、それぞれの役割を全うし、生きていく中に、私たちの生活や社会が成り立っている。私達は目に見えぬ、けれどもそういったものの恩恵をこうむっている。皆さんが今日着ている服一枚も、多くのいのちのおかげで存在します。どこでこの命が作られ、どこでその色が選ばれ、採取され、そしてそれを作る人達や、糸を紡ぐ人達が、どんなものを食べているのか、その人達が生きるための食事のことまで考えると、本当に無限の繋がりの中に私達は生かされていると気付きます。それにも関わらず、孤独を感じる人も大勢います。

そのように、あらゆるものが繋がっていて、無関係なものがないと思いながらも、「アンタ達は関係が無いだろう」と言って、関係のあるなしを決めて、分断、孤独を選んでいくような社会が今の社会だとするならば、寂しいことだなと思います。そして私達はすぐに相手を決めつける。私もそうです。偏見があって、「アンタはホームレスなんだろう、アンタのあり方は違う」そうやって相手のことを決めつける心があるけれど、それでもなお、私達は同じ、精一杯この世を生きていく人なんですよね。

たった一人さえ救えないけれど

悩む気持ちも一緒、そういう同じ人で悩んで、私にはたった一人さえ救うことなんてできませんよ。目の前の人に「俺のこと救ってみろ」って言われたとしても、救いきりませんよ。人間が一人救われるって、どれだけ大変なことか、きっと皆様の方がよくご存知ですよね。何とかこの人のことを支えたいと思っても、その人の心持ちが変わっていくのに、どれだけ時間がかかるのか。この人の生活が変わるのに、どれだけの人が必要なのか。この人が生活を正しくしていくために、何が必要なのか。心を痛めて一生懸命考えていくとして、たった一人だけの力で、一人の人を救うなんてことが、どれだけおこがましいことなのか。

それでもなお精一杯、もっともっとやれに生きて頂きたい。そう願う時に、自分一人ではどうにもならないからこそ、色んな人達と協力し合って、本当にこの目の前の一人に力を加えていくことができたら、どれだけ世の中が豊かになるでしょう。この一人の生き方が変化すれば、結果

として全体が変化していくことになります。全体のことを大切に思うからこそ、たった一人の方に、どこまで向き合えるかが重要になってくるのです。

真の共感ができないので、目の前の人の思いは分かりやしません。分からないからこそ、その人の声を聞きつつ、その人のそれまでの、私に知り得ない過去、苦しい環境の中でも精一杯生きてきたところに、深い敬いの気持ち、尊重や敬意を持って、どこまでも大切に接することが重要だと思わせてもらったんです。この気持ちを忘れずに活動を続けていきたい。そう思って「ひとさじの会」というグループを作ったんですね。

「ひとさじの会」の活動状況





活動の場です。少し前の写真ですけれども、外国籍の人もいますし、真言宗も日蓮宗も、色んな宗教の人も来ています。楽しくおにぎりを皆で握って、出発前には、本堂で浄土宗式のお念仏を申します。とはいえ、キリスト教の方が来たらキリスト教の、金光教の方が居れば金光教の、それぞれの祈り方で良いので、路上で亡くなった方々のことを一緒に思って祈りを捧げてもらっています。立正佼成会、金光教、孝道教団、天台宗、真言宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗、法華宗、浄土真宗、真宗、キリスト教、チベット仏教、ベトナム仏教、台湾仏教、天理教や他の宗教の方々も、実に一杯お越し頂きました。祈るという行為の形は様々かもしれません。でもこうやって一緒に思いを寄せて、関わっていけることはありがたいことだなと思いました。

そんな思いを一緒にしながら、おにぎりや飴玉等を持って、路上で寝ている方々のところに行かせてもらうんです。意外にボランティアに来る人達自身が心の悩みを抱えていることも多くあります。また、矯正教育に入られる前に、うちのボランティアに来た方もおられました。

私達は、矯正教育に直接関わることは少ないものの、入所前や出所後の人と出会うことは多く、彼らがボランティア活動を通じて生き生きと変わっていく姿には、心励まされます。

ただ、やっぱり心が揺れる時には、お参りをするというのが大事で、お参りを私達も主としていますので、月に１回くらいですね、日光浴ならぬ佛光浴をして頂いたりするような機会も設けて、ボランティアの人や当事者の人達が、自分の心のつらさを仏さまに聞いてもらう時間を取ったりもしています。



とはいえ私達は、活動中に教義とか、勧誘することは一切しないので、自然発生的に向こう側から「ちょっと悩みがあって」とか、「お参りしてみたい」という方が来た時だけ受け入れるようにしています。そうしてお越しの方々の話を聞くにつけ、やっぱり私達と変わらないんだなってことを思わせられるのであります。

路上生活者を襲う子供たち

恐ろしいことに、路上生活をしてる人達のことを子供が襲うという事件が、未だに尽きないんです。要因は色々あるんですが、東京だとスカイツリーの建設や、東京オリンピック開催など、色んな行事がある度に「俺たちが大人達のために排除するんだ」と、子供が大人のまなざしの影響を受けて行っているのです。ですから、「街を綺麗にしてやらなきゃいけないんだ」と言って、自分より弱いものを襲うんです。ものすごく悲しいことだと思いました。

大阪でジャーナリストの活動をしてる北村年子さんが、この問題について調べ、実際に捕まった子供達の話を聞いたら、もともと学校にもおうちにも居場所が無かったそうです。そうした子達が、自分より弱い者を襲うことを通じて、自分の存在価値を示そうとしたのではないかと言うんですね。往々にして、そういうことが多くあるんですよね。

俺は無用な人間じゃない。
俺はちゃんと生きていて、俺は他の者より有用なんだ。
あんな奴らがいるから公園が汚い。大人が困ってるじゃないか。
俺が掃除してやらなきゃいけないんだ。

これね、本人の中では正義なんですよ。恐ろしいことに。自分自身が偏差値とかスポーツとか、色んなことで比較されて比較されて、小さくなって小さくなって、そんな中で

いや、小さくないんだ。俺はもっと役に立てるんだ。
生きる意味があるんだ！！

そんな思いから問題行動を起こすケースがあるんです。つらいですよね。家はあるけど、帰る家ではないんです。

上谷の他の団体と、この襲撃事件があった時に、「よし、捕まえよう！」って言って、夜中に路上生活の人達に混ざって寝て、襲撃を待ち構えてたことがあるんです。私、何も用意しないで行ったら、「おい、それじゃ寒いから」って言って、路上生活の人にダンボールをもらいました。ダンボールは暖かいですよ。ダンボールをかぶってですね、おじさん達と一緒になって寝たりと、この日、襲撃者は来なかったんです。明方4時くらいになって、「あいつ来なかったな！と。「でも今日は来なかったですけど心配です！」って言ったら、その路上のおじさんが私にこんなこと言ったんですね。

いやあ、俺らのこと心配してくれるのもありがたいけど、俺はあいつらの方が心配だって言うんですね。あいつらって、夜中に、水が一杯入ったペットボトルとか瓶とかを投げてくる。危ないことする子供たちが心配だ、と言うのです。

考えてみてくれよ。
中学生とか高校生なのに、夜中の1時とか2時とかにやってきて、
何だって俺達みたいなのを狙ってるんだ。あいつら、帰る家無いんじゃないか？

って、心配してくれたのです。そうなんですよ。彼らもまた、ホームレスな子供達なんです。安心して居られる場所がない。ホームとなる場所がないんです。

俺達と同じじゃないか？　いや、俺達以上につらいんじゃないか？

って、路上生活の方が言うのです。自尊感情が持てない子供達が、こういう問題行動に出たりします。子供たちの問題行動の内容は両極端で、自分を責めるタイプの子は自傷行為に進んでいきます。外に出ていくタイプの子は、他者を傷つけることで自分の有用性を示そうとしたりします。「自分なんて生きていたって意味がない」って思う子供達の中には、事件を起こす子たちがいます。その心の根っこには、ホームレスの状態である苦しさがあるため、その環境の中に繋がりというものを、どうやって得てもらえるかが大事な点ではないかと思いました。

命の線引き

襲撃事件を通して考えさせられた命の問題があります。ある支援者が、この襲撃事件の後に、子供達の問題を話していて、こんなことを言ったんですね。

子供達はもしかしたら、自分達が色んな競争の中で負け組になりたくない、
自分こそが勝ち組なんだ、自分は要るものなんだ、有用なものなんだって
示そうとする中で、生きていて良い命と、生きていてはいけない命というような
極端な価値観を持ってしまっているんではないだろうか。

をして、その子達自身が、今の社会の中で、自分は有用だから生きていて良い命だと必死に言えているように思えるのです。綺麗なもの、可愛いもの、元気なもの、健康なもの、SNSで目立つもの、頑張ってるもの、そういったものは生きていて良い命。彼ら「陰キャ」って言葉を使いますね。あまりこう、目立たない存在だったりとか、汚いもの、醜いもの、可哀そうなもの、不健康そうに見えるもの、努力していないもの、死を連想させるもの、こういったものは生きていてはいけない命。こんな線引きをしてるんじゃないでしょうか。恐ろしいけど、本当にこういう考え方が色んな事件を起こしてると思うんです。

福祉施設の「やまゆり園」で恐ろしい連続殺傷がありましたね。殺傷した本人は「助けてやった」と思ってるんです。殺すことを通じて、生きていて良い命ではないと、勝手なジャッジをくだし、社会のためにも、本人達のためにも、意味のない命は殺してあげた方がいいと、凶行に及んだのです。非常に短絡で危ない思想です。しかし根っこには、こういう子供達と繋がってるんじゃないでしょうか。生きていて良い命と、生きていてはいけない命。なぜこのような価値観にさらされているのか？理由は一つではないし、分かりません。一つに絞るべきでもないでしょう。綺麗なものしか映さないテレビのせいか分かりません。学生達にこうした意識を植えつけたのは、私を含む今の社会を作ってきた大人の責任なのかもしれないし、頑張ってるかどうかなんて見た目にも分からないし、SNSみたいに加工することだってできる世の中で、一体誰がジャッジするのか？そもそもジャッジされるべきものではないように思うんです。

人が精一杯生きるという、それだけでどれだけ大変なことか。それが分かっていながら、なぜそこまで比べさせる必要があるのでしょう。個人の能力や社会経済の開発を主として言って、これを推奨していって、失敗も成功も自己責任という風に、個人化し、分断化する。能力不足も仕事や人間関係の失敗も、全ては個人の責任。そんな自己責任の社会がもっともっと進んでいくと、かつての自粛警察みたいに「おいのはちゃんとしている」「ちゃんとしていない」という具合に、皆が互いを監視してジャッジして決めつけて傷つけても、それは自己責任なんだから傷ついて当然なんだと言って、他人を攻め合うような社会がやってくるでしょう。いや、既にそうであるならば、この社会には構造的な問題が既にあるのでしょう。問題が生じているのは個人の能力不足だと言ってる時点で、既にこの構造的な問題に自ら囚になってるのではないでしょうか？うまく仕事ができないというのは、会社の運営方針によって、過重労働の状態を生じているにも関わらず、問題は個人の能力だとする時に、本人も気づかないで「自分に能力がないから出来ないんです」となっていく。官民的隷従が続く中で、「自分はダメなものなんだ、自分が悪いんだ」と責めたてていき、「俺なんか不要なんだ」と、やがて社会から離れていく。「もうどうせダメなら好き勝手やりたい」と言って、罪を犯していく者もいるかもしれません。

「助けて」って、もっと手前で言えればいいのに、「助けて」なんて言うのはそもそもダメな人間の象徴だと思われてもいます。そんな風に考えたら「助けて」の声も出ないんです。皆さん、「助けて」って言えますか？大人になるうちに、何でも自分で「しっかりしなさい、しっかりしなさい、ちゃんとしなさい、ちゃんとしなさい」と言われ続けます。皆さん、ちゃんとしてるんですよ。

だけど、ちゃんと生きなきゃいけないって、自分が思っているんだけど、だんだんそれを、自分に刃のように向けていって、自分で自分を責めていくようになります。それを加速度的に進めていくような社会の構造的欠陥の問題も、合わせて見ていかなきゃいけないなとも思うんです。また、出来てるか出来てないかとか、ダメかどうかなんて分からないのに、少しでもダメな点が明るみに出ると、みんなSNSで攻撃して。もう本当に怖い社会だなと思います。

若者ホームレス

そんな中であぶれていく子供たちが、若者ホームレスになって行きます。「つくろい東京ファンド」という団体の代表が、これは少し前の、コロナ前のデータになってしまうんですけれども、全相談者の3割が30代以下になってきていると発表しました。今はホームレス状態であると、見た目で分かる人はほとんど居なくなりました。みんな身綺麗にしています。だけれども、やっぱり不安定な方々が一杯居て、その多くはネットカフェやファストフード店、脱法ハウス、友人宅などを点々としています。中には矯正施設に入って出てということを繰り返す人もいますね。それは見た目には綺麗になっているんだけれども、見えないけど困ってる人っていうのはすごく一杯居て。で、ホームレスの状態というのはさっきも言った通り、屋根があったとしても、ネットカフェは家じゃないんですよ。安心して良い場所じゃないんです、友人宅は。そういうような、非常に脆弱な生活環境に置かれているのです。住まいの貧困の問題というのは、これは人権に関わる問題で、人が真っ当に生きていく上で住まいというのは非常に重要なものだと思います。でも、ただ家があるのではなくて、ここに繋がりを持てる、「ホーム」というものをちゃんと考えていかなきゃいけない。

そんな民間の相談機関に助けを求めてくる若者が沢山増えていて、彼ら彼女らが親や兄弟に支援を受けられない状態にあるということが問題なんです。昨年、私のところに、泊まる所も住むところもお金も無くて相談に来た子は、九州から来た18歳の子でした。親が両親ともに、片方は事故で、片方は病気で亡くなって、仕事を求めて東京にやって来たと言います。元々おじさんが仕事を斡旋してくれていたんだけれども、そのおじさんから暴力を振るわれるようになって、これではとても生きていけないと逃げ出して来たというケースでした。本当に、色んな形でホームレス状態の人達が生み出されてきているんです。10代や20代前半でホームレス状態になる若者のほとんどが、家族との関係が断絶状態にあるか天涯孤独の状態にあります。ビッグイシュー・ジャパン

○厚生労働省「国民生活基礎調査」による貧困率
・日本の相対的貧困率の最新値、新基準」は15.4%
→ 前回調査の2015年の15.7%から改善するも、6.5人に1人が貧困！
・17歳以下の子どもを対象とした「子どもの貧困率」は11.5%（2021年）
→ 前回調査の14.0%より改善したが……
依然、9人に1人の子どもは貧困状態に陥っている
・ひとり親世帯（子どもと大人がひとりの世帯）の貧困率も44.5%
→ 50.8%（2015年）から改善しているものの8人中3人近くが貧困状態！
◆日本の貧困率の高さは国際的比較
米国（15.1%、2021年）イギリス（11.5%、2020年）以上
日本は、先進国中で最も高い貧困率！！

の若者ホームレスの調査が以前行われた時、50人中6人が養護施設、3人が親戚宅で育てられたという背景を持つ方々でした。

背景にある貧困

この問題の背景にあるのは、親世代の貧困、親族の虐待、家庭内の不和などがあります。子供の7人に1人が貧困の日本の中で、日本の相対的貧困率が15.4%、実に6.5人に1人が貧困。17歳以下の子供を対象とした子供の貧困率は11.5%。前回調査よりも改善したけれども、依然として9人に1人が貧困状態で、今食料の価格が高騰してるので本当に大変です。一人親世代の子供の貧困率も44.5%、50.8%から改善しているものの、まだ半数近くが貧困状態です。先進国の中で日本の貧困率はワーストです。本当に高い貧困率です。相対的貧困率については、私は経済学者じゃないので細かくは説明できませんが、6.5人に1人と言ってるけど、月に使えるお金が10万円以下という人が沢山いるという風に考えてもらえればいいかなと思います。こんな生活の中で子供を育てるのです。もし病気があれば大変ですよね。そんな中で暮らしていかなきゃいけない人が一杯いるんです。







お寺や教会で行われている困窮者支援も一杯あります。子供食堂、無償学習支援、食料支援。私のところも「こども福楽堂」というものを設けていて、お寺の一角をＮＰＯの活動の場に提供したりしています。場の支援は専門性を持たない宗教者であっても行える重要な役割ではないかと思ってます。先ほどの困窮者支援のグループの活動や、フードバントリー、無償学習支援をするＮＰＯ、そして介護の大変な人達の介護者の居場所。それからちょっと前まで、池田小学校事件の被害者遺族の方が、グリーフケアの活動をうちでやってくれていました。多くの方々からの





お布施やお供え物が、子供達に行きます。宗教の違う方も今は来てるんですけれども、お寺の宗教行事を文化として学んでもらうこともあります。

私も「お坊サンタ」になって、写真のお坊サンタは、私の師父なんですけど、一緒にクリスマスをやったりもします。子供への教育と食料の支援は、貧困と犯罪の予防になっていきます。学校で暴れる外国籍の子が、こういう場でちゃんと言葉を覚えることで安定して、犯罪の道に行かなくなっていったりする。大事なことなんですよ。本当に暴れて仕方がなかったんだけれども、学習支援で日本語を覚えた途端に、とっても良い子になったのです。ネグレクトで食べるものも教育もなかった子供が、社会と断絶した少年が、こういう場でもう一回再スタートを切るようなことがあったりします。お寺を通じた支援が全国で色々と進んでいて、若い僧侶達がやっている米一升運動という活動も、色んな貧困者支援の現場で宗派を超えて徐々に広まっています。

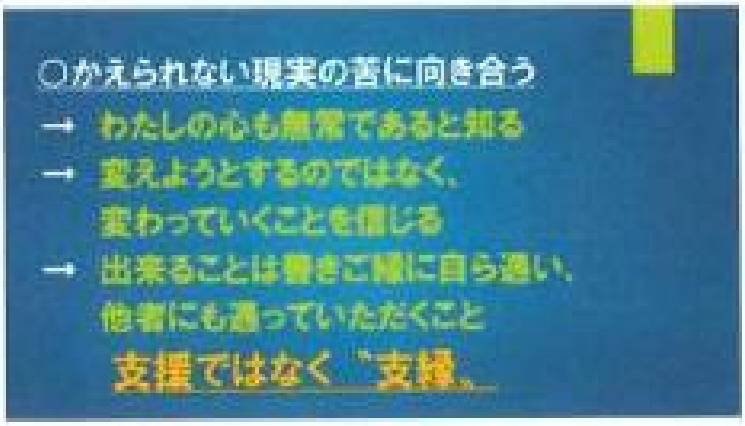
「支援」ではなく「支縁」

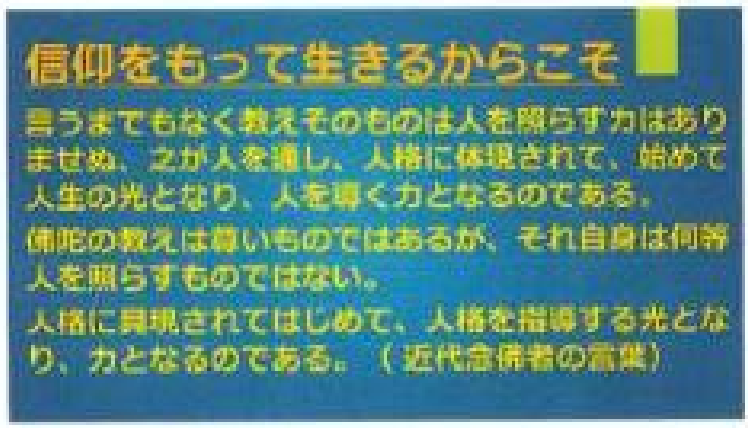
「いのち」に触れて、改めて平等を考えさせられます。生き方や死に方に命の重さは関係なく、皆精一杯その環境の中で生きています。変えられない現実の苦に向き合い続けてゆかねばならないのも平等です。教諭師や矯正施設の皆様方もそうですよね。いきなり相手を変えることはできません。しかしそれでもなお関わり続けていかねばならない時があります。しかし無常な私の心は変わらないように思いつつも、目に見たものによっても、環境によってもどんどん変わっていくように、他者の苦悩やあり方を変えようとするのではなくて、やがて変わっていくのだということを信じて接することが大事だと思うんです。

そしてできることは、自らが良きご縁、良き環境、良き人達の繋がりと出会い、それを他者にもめぐりあって頂く「支縁」であり、一方的に与える「支援」ではないと思うんです。目の前のその人が持っていた大事な既存のご縁があるならば、その過去のご縁をもっと大事にできるように支えていく。追悼供養なんかもそうですよね。祈りもそうですよ。そして現在その人がＳＯＳを出しているならば、その人に今必要な新たなご縁に結び付けていく。そういう「支縁」もできる

でしょう。そして最終的には、いつかお互いが支え合えるような、そういう「お互い様」になれるようなご縁となってゆく、支え合えるご縁になっていくことが大事だと考えています。

最後に、尊敬する近代の宗教者の言葉をご紹介することを通して、信仰をもって生きる大切さを共有させて頂き、まとめと致します。教え自体は尊いものですが、人を照らすものでも、それが直接指導を行うものでもありません。この教えが人を通し、人格に体現されて、初めて人生の光となり、人を導く力となるのです。それはおそらく宗教が違えど同じことが言えると思います。教誨師や矯正施設の皆様、皆様方の人格を通してこそ、目の前の一人の生き方はきっと変わっていくのでありましょうし、そしてその先に社会全体の豊かなあり方というものも見えてくるように思うんです。





どうも最後までありがとうございました。

司会

先生、まことに心を打つ、素晴らしいお話をありがとうございました。何かお尋ねされたいことがございましたら挙手をお願い致します。はい、どうぞ。

質問者



長崎刑務所所属の、佐世保教誨師会の辻本でございます。先生から、人との出会いは新しい人生そのものを教えて頂くというようなことをお伺いしましたけれども、人と会う時にその人は、教誨の立場にしてもそうですけれど、用心深くなって、本当に聞かなければいけないことを引き出すことができない、もどかしさをよく感じることがあります。先生はその点はどのように心掛けて、色んな人と接していらっしゃるのかを教えて頂ければと思うんです。

講師（吉水岳彦師）

辻本先生、ご質問ありがとうございます。そうですね。今日の話の中でも申し上げた通り、私はつくづく、自分の近くにいる人の気持ちの奥の奥まで分からない人間なんだなっていうことを実感するんです。分からないんです。相手の心なんて、本当に知り得ないんです。分からないからこそ、分からないままでいいと思っていて、分からない人生を生きてきたことに敬意を持って聴きます。その人の言っていることが、本当かどうかも分からないですよ。だけど、その人が真剣に語ってくれるならば、それを結一杯聴かせて頂くのみですし、その人が語りたいこと、思っていることを、ただ嘘で終ったとしても、それがその人の結一杯の今のあり方を私に示してくれることだと受け取り、分からぬままに尊重して聴かせて頂いています。

お答えになっているかどうか分かりませんが、ありがとうございました。

質問者

分からないままでいい。大変貴重なお言葉を頂きました。ありがとうございました。

司会

先生におかれましては、本日は社会的弱者の救済活動、その日々の実践を通されまして、具体的な体験談を、お話し頂きました。現実を踏め、言葉を尽くして、全身全霊というご姿が相応しいご講演でございました。本当に貴重なご講演ありがとうございました。



閉 会 式

司会（松尾善樹）

それでは只今から、閉会式を始めさせて頂きます。開式の辞を、大会実行副委員長であります、北九州地区宗教教誨師会副会長の池田修嗣（いけだしゅうじ）より申し上げます。

開 式 の 辞

大会実行副委員長　池田修嗣



只今より、第46回九州矯正管区教誨師研修北九州大会の閉会式を始めさせて頂きます。

司会

続きまして、実行委員長挨拶。実行委員長であります、北九州地区宗教教誨師会会長　渡邊和弘（わたなべわこう）から、皆様にご挨拶申し上げます。



実行委員長挨拶

北九州地区宗教教誨師会長　渡邊和弘



一言、ご挨拶を申し上げさせて頂きます。昨日、今日、1泊2日にわたって、この研修大会を開催させて頂いて、皆さんのご協力のもとに終わりを迎えることとなりました。この1泊2日の研修で、それぞれ思いの熱い、熱のこもったお二方の講演を頂きました。それぞれに立場の違いがありますけれども、その思いは繋がっているだろうと感じながら、丸山先生、そして吉水先生のお話を聞かせて頂きました。最後は絶対平等という精神にどこまで近付けていけるのか。そういう中で、ご講演の中にあったように、内在化していた社会構造が今、顕現化してきているんだということを、あらわに教えて頂いたような気が致します。それで我々は少しく改めて教誨活動の中に、そういった視点を持ちながら関わっていくことの大切さを教えて頂いたような気が致します。本当に皆さんのご協力のもとに、この大会が無事に円成できることを心から感謝申し上げます。

それで、もう1つ楽しい話をと思って、今年は昭和で言うならば 100 年。敗戦後から 80 年という大きな大きな節目を日本国は迎えております。そういう中で、この 10 月に大きな変化があった。憲政史上初めて女性の内閣総理大臣が誕生したということが一つ。それからもう一つは、日本人のお二方のノーベル賞が発表された。それからスポーツ界では、大谷翔平選手が大リーグで、自ら投げて 10 奪三振、そして自らのバットで3本のホームランを打ったといった快挙も成し遂げる。そういう 10 月を通して見た時にですね、何かしら将来に向かって少しく希望と夢を私達に与えてくれているのでは無かろうか。その中で昨日、今日と1泊2日で、この教誨師大会を担当させて頂きました。私にとっては、生涯の一つの思い出、記憶になることでございます。そういう中で、これからも皆さんと手を携えて、本当に寄り添える、というよりも、心で共感できる教誨というものをですね、共に学び合い、そして実践していける、そういう出発点にして頂ければと願っております。本当に2日間ご苦労様でございました。ありがとうございました。御礼申し上げます。

司会

渡邊会長、ありがとうございました。続きまして施設長挨拶。北九州医療刑務所総務部長小山雄一郎（こやまゆういちろう）様、お願い致します。

施設長挨拶



（ただ今ご紹介を頂きました小山でございます。所長の澤田からご挨拶を預かってまいりましたので、代読させて頂きます。）

第46回九州矯正管区教誨師研修北九州大会の閉会にあたり、開催担当施設を代表して一言ご挨拶させて頂きます。昨日から2日間にわたり開催された教誨師研修北九州大会は、各施設においてご尽力いただいている教誨師の先生方、ご参集の皆様方のお力添えを頂きまして、盛会のうちに閉会の運びとなりましたことを心から厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、矯正においては、本年6月から拘禁刑が施行され、個々の特性に応じた改善更生の意欲の喚起が、一層重要となっているところでございます。そのためには、受刑者、在院者一人一人に寄り添い、心の支えとなって下さる教誨師の先生方の存在は、私たち矯正施設にとってかけがえのないものであり、更生への道を照らす光であると確信しております。今後とも、皆様のお力添えを頂きながら、受刑者、在院者の更生と、社会復帰を支える矯正行政を、共に築いてまいりたいと存じますので、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。本大会において、ご講演を賜りました、丸山泰弘先生および吉永岳彦先生、誠にありがとうございました。

最後になりますが、宮崎県教誨師会を始めとする教誨師の皆様方に、深甚なる感謝を申し上げますとともに、九州矯正管区教誨師連盟の益々のご発展と、本日ご臨席頂きました皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念致しまして、私の挨拶とさせて頂きます。

令和7年10月28日

北九州医療刑務所長　澤田貴裕

（代読　総務部長　小山雄一郎）

大会宣言文

司会

ありがとうございました。それでは、昨日ご選出されました委員の皆様によって、大会宣言文の起草が行われました。宣言文の発表と採択を行います。大会宣言文起草委員会委員長 小島有然（こじまゆうねん）先生、どうぞよろしくお願い致します。

大会宣言文起草委員長　小島有然

大会宣言文の取りまとめの進行をさせて頂きました、小島でございます。まず、委員の先生方をご紹介申し上げます。

大会宣言文起草委員

福岡教誨師会	原田円城 先生	(浄土真宗本願寺派)
長崎教誨師会	永山真英 先生	(浄土真宗本願寺派)
佐世保教誨師会	小野純真 先生	(浄土真宗本願寺派)
熊本教誨師会	甲斐孝文 先生	(浄土真宗本願寺派)
大分教誨師会	小嶋昭一 先生	(金光教)
宮崎教誨師会	佐藤公英 先生	(雷洞宗)
佐賀教誨師会	藤木徳仁 先生	(浄土真宗本願寺派)
鹿児島教誨師会	吉川孝介 先生	(浄土真宗本願寺派)
沖縄教誨師会	波慶次馨 先生	(神社本庁)

以上の委員によりまして、慎重な審議の結果、大会宣言文(案)が出来上がりました。先生方には御礼を申し上げます。では、大会宣言文を読み上げます。皆様、お手元に紙がありますので、どうぞお手に取って下さいませ。

<大会宣言文を読み上げ> ※巻頭（P.1）に記載しております



司会

ありがとうございました。それでは皆様、ただいま発表されました大会宣言文を、ご採択頂けますでしょうか？ 拍手でお願いします。(拍手) はい、ありがとうございました。皆様のご賛意をもって採択させて頂きます。では、大会宣言決議文の「案」の字を消して頂ければと思います。小島先生、どうもありがとうございました。

それでは次回開催地であります、佐賀県教誨師会会長 牧大雄（まきひろお）様より、ご挨拶を頂戴致します。牧様、よろしくお願い致します。

次期開催地代表挨拶

佐賀県教誨師会会長　牧大雄様



佐賀県教誨師会の牧でございます。２日間の研修、大変お疲れ様でございました。２年後の令和９年の秋に、まだ日にちは決めてはおりませんけれども、「第 47 回九州矯正管区教誨師研修大会」を佐賀県で開催すべく、準備を進めているところでございます。２年後に、また佐賀で皆様とお会いできることを楽しみにしておりますので、ぜひ佐賀にお越しください。よろしくお願い致します。

司会

牧様ありがとうございました。次回また皆様と、佐賀の地でお会いできますことを祈念致します。

それでは閉式にまいります。本大会実行副委員長 池田修嗣より閉式の辞を申し上げます。池田先生、よろしくお願い致します。

閉 式 の 辞

大会実行副委員長　池田修嗣



「第 46 回九州矯正管区教誨師研修北九州大会」の閉会にあたり、御礼のご挨拶を申し上げます。２日間にわたり、九州・沖縄各地からご参加下さいました、皆さま方のおかげをもちまして、予定通り閉会式を迎えさせて頂くことができましたこと、ひとえに皆様方からの多大なるご協力を賜ったことに尽きると思い、厚く御礼申し上げます。

さて、本大会の開催にあたっては、北九州地区宗教教誨師会が実行委員会を組織して、約１年半前より準備を進めてきたところではありますが、何分経験に乏しく不慣れな中での作業でありましたので、大会開催中、多くの手違いやご迷惑をお掛けすることがあったものと存じますが、どうかお許し頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、ご来賓としてお越し下さいました多くの皆様、そして何より、実行委員として多くの事務を引き受けて下さいました、北九州医療刑務所、小倉拘置支所の職員の皆様方には、多大なるご協力とご支援を頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。また、ステーションホテルのスタッフの皆様にも感謝申し上げ、「第 46 回九州矯正管区教誨師研修北九州大会」を閉会とさせて頂きます。誠にありがとうございました。

司会

それではこれを持ちまして、「第 46 回九州地区国立教員養成大学・学部附属学校教育研究協議会北九州大会」の全日程を終了させて頂きます。ご参加下さいました皆様方の、ご協力を得まして、おかげを持ちまして、盛会裡に終了することができましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

これで解散と致します。どうぞお気をつけてお帰り頂きますよう、お願い致します。

講師略歴

丸山（まるやま）　泰弘（やすひろ）　教授



京都生まれの京都育ち。立正大学教授。博士(法学)。日本犯罪社会学会理事、日本司法福祉学会副会長。市民の、市民による、市民のための刑事政策をモットーとする。刑事政策・犯罪学を専門とする日本で唯一の民間の研究所である龍谷大学矯正・保護総合センターで博士研究員を経て現職。2017年にUniversity of London、2018－2020年にはUC Berkeleyで客員研究員。
主な業績として『刑事司法における薬物依存治療プログラムの意義』(日本評論社〔2016年守屋研究奨励賞受賞〕)、『死刑について私たちが知っておくべきこと』(筑摩書房、2025年)などがある。
ポッドキャスト番組「丸ちゃん教授のツミナハナシ」のメインMCも務める。

【経歴】

2023年5月 ～ 現在	法務省 保護局(保護司)
2021年4月 ～ 現在	立正大学 法学部 法学科 教授
2018年8月 ～2020年3月	カリフォルニア大学バークレー校 ロー・スクール法と社会科学研究所研究員
2014年4月 ～2021年3月	立正大学 法学部 法学科 准教授
2013年4月 ～2014年3月	立正大学 法学部 法学科 講師
2011年4月 ～2013年3月	立正大学 法学部 法学科 特任講師
2010年1月 ～2011年3月	龍谷大学矯正・保護総合センター研究員 ・ポスドク(博士研究員)

吉水（よしみず）　岳彦（がくげん）　師



1978年東京都生まれ。2001年3月に大正大学人間学部仏教学科浄土学卒業後、同大学大学院仏教学研究科浄土学コースに進む。2007年に大学院の仲間と念仏修養会「為先会」を発足。2009年3月に学位請求論文『霊芝元照の浄土教』を提出して博士号(仏教学)取得。同年、若手僧侶有志と「社会慈業委員会 ひとさじの会」を発足。ホームレス状態にある人や身寄りのない人の葬送支援、浅草山谷・上野地域における炊き出し夜回り、また東日本大震災被災地支援に取り組む。一方、2016年には、病院のスピリチュアルケアワーカーとしての活動を開始。2017年に、光照院境内に「こども極楽堂」を開設。子どもの居場所作り・学習支援・グリーフサポートを行うNPO等との協働を開始。現在、浄土宗光照院住職、ひとさじの会事務局長、為先会副代表、臨床仏教研究所上席研究員、大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師、東京慈恵医科大学病院非常勤講師、仏教看護ビハーラ学会理事、石巻いのり大佛建立プロジェクト勧進僧代表。

【主な著作】
『浄土宗の教えと福祉実践』（共著、2012年、ノンブル）
『「臨床仏教」入門』（共著、2013年、白馬舎）
『霊芝元照の研究―宋代律僧の浄土教』（単著、2015年、法藏館）
『お袖をつかんで』（単著、2019年、てるふる）
『東アジアにおける仏教ソーシャルワーク 中国仏教・台湾仏教編』
（共著、2021年、学文社）
『行誡上人と弁栄上人』
（単著、2021年、浄土宗寺庭婦人会編『微風』第53号所収）
『禅定―思いを静める―』（共著、2024年、(公財)仏教伝道協会）等他多数。

出 席 者 名 簿

（順不同・敬称略）

来賓

全国教誨師連盟副理事長	藏田　秀樹
北　九　州　市　長	武内　和久
北九州医療刑務所篤志面接委員会長	深見　德久

参列者

九　州　矯　正　管　区　長	和田　浩史
九州矯正管区成人矯正部長	村上　正剛
九州矯正管区少年矯正部長	馬島　貴美
九州矯正管区成人矯正第二課長	寺松　広記
九州矯正管区少年矯正第一課長	武富　秀仁
九州矯正管区成人矯正調整官	水元　伸一
九州矯正管区成人矯正第二課企画係長	松岡　宏輝
九州矯正管区成人矯正第二課事務官	松井　良平
北九州医療刑務所長	澤田　貴裕
小　倉　拘　置　支　所　長	中元寺　徹

職員

■福岡刑務所（3名）

小嵜 一平(所長)　高岡 志津代(教育統括)　田中 光(主任看守)

■福岡拘置所（3名）

岡本 智成(所長)　伊東 隆広(作業・教育統括)　三原 壮吾(看守部長)

■福岡少年院（3名）

三好 清凡(院長)　渕上 賢一(企画統括)　中川 博昌(企画主任)

■筑紫少女苑（3名）

松永 智井(苑長)　石井 涼子(企画統括)　後藤 眞純(企画主任)

■佐賀少年刑務所（3名）

福田 篤史(所長)　早川 充晃(教育統括)　多々良 文彦(副看守長)

■麓刑務所（2名）

岡村 智恵(所長)　藤澤 由文(教育統括)

■長崎刑務所（2名）

磯貝 真之(所長)　米澤 賢人(教育統括)

■熊本刑務所（3名）

大坪 誠(所長)　桑原 悠二(教育統括)　深尾 一光(教育専門官)

■人吉農芸学院（3名）

小林 健治(院長)　野田 圭史(企画統括)　中野 智文(専門官)

■大分刑務所（3名）

今村 守(所長)　弥永 健二(教育統括)　斉藤 雅一(教育主任)

■中津少年学院（3名）

亀田 公子(院長)　浦田 雄介(企画統括)　後藤 浩一朗(専門官)

■大分少年院（3名）

村上 勝(院長)　竹下 哲郎(教育専門官)　田部 勇一郎(専門官)

■宮崎刑務所（2名）

福吉 正幸(所長)　楠原 康史(教育専門官)

■鹿児島刑務所（1名）

鍋倉 真奈美(教育統括)

■沖縄刑務所（3名）

中村 志郎(所長)　加々美 綾子(教育統括)　嘉陽田 亜耶美(教育専門官)

■沖縄少年院（1名）

溝口 麻美(院長)

■沖縄女子学園（1名）

舩川 英樹(園長)

■北九州医療刑務所（4名）

安達 英次郎(矯正処遇首席)　茶園 拓雄(作業・教育統括)

鶴田 貴広(教育主任)　大野 博道(看守部長)

■小倉拘置支所（1名）

長尾 博朗(副看守長)

教誨師

■九州矯正管区教誨師連盟(3 名)

高原 眞見（浄土真宗本願寺派） 原田 円城（浄土真宗本願寺派）

大島 光海（浄土真宗本願寺派）

■福岡教誨師会（13 名）

樽 教信（浄土真宗本願寺派） 三池 昌世（真宗大谷派）

塚本 吉興（キリスト教） 門脇 龍一（日蓮宗）

秦 秀道（真宗大谷派） 大庭 力（プロテスタント）

香林 賢法（浄土宗） 城 厚慈（浄土真宗本願寺派）

鳥野 哲真（曹洞宗） 末永 惣一（天理教）

岡本 明了（浄土真宗本願寺派） 吉永 亮（金光教）

小金丸英明（浄土真宗本願寺派）

■佐賀県教誨師会（5 名）

牧 大雄（臨済宗） 藤木 徳仁（浄土真宗本願寺派）

相原 典之（プロテスタント） 福地 春雄（曹洞宗）

平川 賢紹（曹洞宗）

■長崎刑務所宗教教誨師会(5 名)

松竹 正純（日蓮宗） 木山 真英（浄土真宗本願寺派）

西崎 智英（浄土真宗本願寺派） 緒方 正親（浄土真宗本願寺派）

湯春 真乗（浄土真宗本願寺派）

■佐世保教誨師会（4名）

小野 純真（浄土真宗本願寺派） 辻本 良明（浄土宗）

小西 好生（浄土真宗本願寺派） 須川 憲司（曹洞宗）

■熊本県教誨師会（6名）

甲斐 孝文（浄土真宗本願寺派） 藤井 慶峰（曹洞宗）

橘 彰映（真宗大谷派） 芥川 隆章（浄土宗）

末永 道彦（金光教） 富永 靜行（金光教）

■人吉農芸学院教誨師会（2名）

松崎 義治（日本バイブルプロテスタント）

藤島 英信（浄土真宗本願寺派）

■大分県宗教教誨師会（5名）

河野 全厚（日蓮宗） 丹羽 一誠（浄土宗）

宝珠 典隆（臨済宗妙心寺派） 小嶋 昭一（金光教）

大在 紀（浄土真宗本願寺派）

■中津少年学院教誨師会（2名）

晃 弘道（浄土真宗本願寺派） 自覚 大道（曹洞宗）

■大分少年学院教誨師会（2名）

菊池 泰啓（日蓮宗） 村上 正典（浄土真宗本願寺派）

■宮崎県教誨師会（9 名）

佐藤 公英（曹洞宗） 岩崎 念唯（浄土宗）

田中 眞司（天理教） 黒木 報源（日蓮宗）

弘中 康之（浄土真宗本願寺派） 崎田 一海（浄土真宗本願寺派）

押川 悠誠（曹洞宗）岩佐 庄司（天理教）旭吉 法純（浄土真宗本願寺派）

■鹿児島県教誨師会（3 名）

吉川 孝介（浄土真宗本願寺派） 佐藤 紀文（浄土真宗本願寺派）

幸 一誠（浄土真宗本願寺派）

■沖縄県教誨師会（1 名）

波慶次 馨（神社本庁）

■北九州地区宗教教誨師会（31 名）

渡邉 和弘（日蓮宗）黒田 幸裕（浄土真宗本願寺派）池田 修嗣（天理教）

小島 有然（真言宗） 熊野 一眞（浄土宗） 松尾 善樹（浄土宗）

水上 覚也（浄土真宗本願寺派）福原 正郎（天理教）山下 輝信（金光教）

坂本 了一（浄土真宗本願寺派） 加藤 教行（浄土真宗本願寺派）

中村 和宣（浄土真宗本願寺派）吉水 光哉（浄土宗）安永 宏史（浄土宗）

湯浅 幸子（浄土真宗本願寺派）松田 泰子（金光教）松代 邦義（日蓮宗）

宮武 有為子（天理教）谷 一宗（浄土真宗本願寺派）中村 公彦（日蓮宗）

古賀 哲乗（浄土真宗本願寺派）高渕 弘明（黄檗宗）片桐 良寛（真言宗）

田中 知（日本基督教団）鎌田 康孝（黄檗宗）千葉 仁志(バプテスト教会)

生土 昌行（浄土真宗本願寺派）日高 伴子（日本基督教団）

大園 直樹（曹洞宗） 杉原 寛信（カトリック教会） 桂 善浩（金光教）

大会実行委員

大会実行委員長	渡邊和弘(会長)
大会実行副委員長	黒田幸裕(副会長)　池田修嗣(副会長)
大会運営委員長	松尾善樹(司会)
運営係	吉水光哉　安永宏史　田中知
会場（受付）係	古賀哲乗　福原正郎　中村和宣　熊野一眞 湯浅幸子　宮武有為子　千葉仁志
会場（設営）係	松代邦義　中村公彦
記録係	水上覚也　谷一宗　坂本了一　杉原寛信 日高伴子　桂善浩
講師等接待係	山下輝信　松田泰子　高瀬弘明　生土昌行
会　計	加藤教行　鎌田康孝
監　査	湯浅幸子　松代邦義
起草委員長（副）	小島有然　片桐良寛
懇親会係	大園直樹


WELCOME


STATION HOTEL KOKURA




第46回 九州矯正管区
教誨師研修北九州大会
公益財団法人全国教誨師連盟
九州矯正管区教誨師連盟
年10月27日・28日 飛翔の間














第46回 九州矯正管区教誨師研修北九州大会
九州矯正管区教誨師連盟

第46回(令和7年)九州矯正管区教誨師研修北九州大会 大会記録
発行日　2026 年 2 月 28 日
発行者　北九州地区宗教教誨師会
事務局　福岡県北九州市小倉南区葉山町1丁目1－1
北九州医療刑務所内（電話:093-963-8131）
印刷所　株式会社プリントパック

